

地域コミュニティに求められる「地域新聞」の 役割の実践的分析と、今後のビジネスモデルを構築するプロジェクト

鈴木賀津彦

Project to practically analyze the role of “regional newspaper”, which is required by local communities, building up its future business model.

Katsuhiko Suzuki

本研究は、「地域ジャーナリズム」のあり方を探るため、茨城県つくば市に本社を置く『常陽新聞』と神奈川県小田原市の『神静民報』を事例に、「地域新聞」の役割を実践的に検証するとともに、「地域のソーシャルビジネス」の新しい形としてビジネス的戦略性を明らかにしようと試みた。

プロジェクトは、現代教養学科准教授・清水真准先生との共同研究として、学生の参加を呼びかけ、埼玉県所沢市の市長インタビューの FM ラジオ番組づくり、東京新聞本社での「地域版」制作の現場訪問、常陽新聞を訪問しての社長やデスクからのヒヤリング等を実施した。学生の視点からも、「地域ニュース」が現代の都市社会にますます必要となってきたことを確認する「場」となった。

この共同研究で清水先生は、2つの論文<「**地域ジャーナリズム**」の実践と新聞ビジネス戦略—『常陽新聞』への取材から—> (2016 昭和女子大学「学苑」第 904 号) と<つくば市・土浦市を拠点とする地域紙『常陽新聞』による「地域ジャーナリズム」の実践に関する研究> (2016 立教大学「応用社会学研究」No.58) を執筆した。

2016 年 1 月 22 日未明、清水先生は論文を書き終えた直後に急逝された。共同研究のメンバーとして、清水先生の研究を引き継いでいくことを誓い、哀悼の意を捧げる。

【2015 年 4 月】<意見交換>

■神奈川県小田原市で『神静民報』編集長らインタビュー

■『神静民報』編集者らが、つくば市『常陽新聞』を訪問した意見交換を設定

【8 月】<インタビュー>

■『常陽新聞』本社にて榎澤悟社長インタビュー (清水、鈴木)

【10 月】<インタビュー>

■『常陽新聞』榎澤悟社長の 2 度目のインタビュー (昭和女子大で)

【11 月】<実践活動> 学生の所沢市長インタビュー番組を実際にオンエア

■埼玉県狭山市に本社を置くコミュニティ FM「エフエムチャッピー」で、学生が参加して番組制作。1 年生 2 人が出演して、1 時間番組を 2 週間分収録。10 月の所沢市長選で再選された藤本正人市長に、所沢市政などについて学生がインタビューする内容。

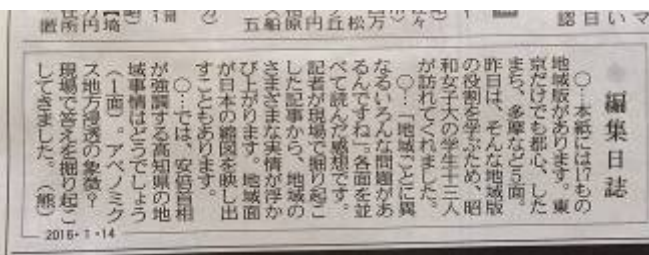


【12月】<インタビュー>

- 『常陽新聞』本社にて松本裕樹デスクのインタビュー（清水、鈴木）

【2016年1月】<実践活動>

- 学生13人（1年生9人、2年生4人）が東京新聞本社訪問、地域版の制作現場を視察



【2月】<実践活動>

- 学生による『常陽新聞』榎澤社長および松本・編集デスクのインタビュー、東京新聞つくば通信部・増井のぞみ記者との意見交換（9人参加＝1年生5人、2年生4人）



以上の取り組みの中で得た研究成果についての詳細は、2つの清水論文を参照いただきたい。また、清水先生が亡くなる直前に榎澤社長に送信した「最後のメール」に、今後の研究課題について書かれている。「応用社会学研究」の抜刷版の表紙に掲載した。以上